

□ アナリスト週間相場予想

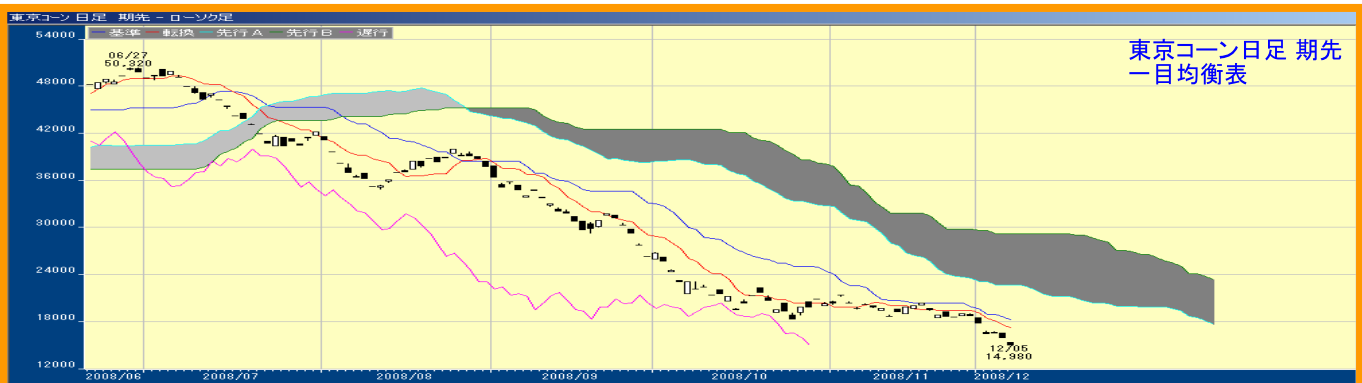
	 コーン Corn	 大豆 Soybean
江崎		
西		

Pick up News

〔注目スケジュール〕

- 12/ 8 米農務省 (USDA) 週間輸出検証高
- 11 USDA需給報告
USDA週間輸出成約高
- 12 米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



チャートは東京コーン日足に一目均衡表を被せたものである。今週12/1に10/27につけた安値18330円をブレイクダウン、その後同ラインに回復できずに連日一代安値を更新中である。一般大豆もコーンに遅ればせながら昨日(12/4)10月のボトム32550円をブレイクダウン。本日は続落となっている(12/5前引け現在)さて今後の展開だがコーンの一目均衡表は三役逆転のまま売り方針継続を示唆、一般大豆は11/12に一旦転換一基準ペアが好転したものの12/2には逆転、再び三役逆転の売りサイン示現となり、両銘柄共に買える形ではないと当方感じる。単純パターン上10/27安値をブレイクダウンした現在は「トレンドは継続する」のパターン分析上の基本原則に従って先週に引き続き売り方針としたい。両銘柄共に売り参入した場合の撤退ラインは10/27安値であり、大豆のほうが値幅のリスクが若干低いということはある。買い参入は両銘柄共当方不推奨。

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

穀物相場もついに底割れとなった。原油の下落が大きく作用している感は否めないが、それに加えて米国の輸出鈍化が売り材料としてクローズアップされている。金融危機下でドルは円に対して弱含みの流れが続いているものの、その他の通貨に対してはむしろ買われているほうで、これが輸入国の米国産離れを引き起こしているようだ。コーンに関してはもともと輸出鈍化が指摘されていたが、とうとう大豆の輸出の伸びも低下してきた点には注意を要する。週間で発表される輸出成約高ベースでは、大豆は今年度(2008/09~2009/08)の最低水準に落ち込んでしまっている。米国内の景気悪化を受けての飼料需要も落ち込みが著しく、大豆粕相場と下落をともにしているのが現状である。

これまで、内容の差からシカゴ市場で「大豆買い・コーン売り」を進めてきた筋も手を引き始めた感じもあり、弱気相場が続く中で、ストラドル取引のポジション維持には注意が必要となってきたようだ。東京コーンの1万5,000円割れ、東京一般大豆の3万円割れには値頃感も働くが、安易には買えない相場である。さすがにここから売り叩くにはもう一つ材料が必要となってこようが、リバウンド狙いはほどほどにしたい。

なお、11日には12月需給報告が発表される。市場では弱気感が充満しており、需要面の引き下げがあってもサプライズにはなりづらいとは思われるが、用心するに越したことはない。来春の作付面積予想もそろそろ気になり始める頃合いだが、この相場を受けてさえ、コーン・大豆ともに拡大見通しである点も評価づらい。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。